ISSN 2185-8578

JICA 横浜 海外移住資料館

館報

2015 年度

はじめに

JICA 横浜 海外移住資料館が 2002 年 10 月に開館し、13 年が経過しました。みなとみらい 21 地区の発展とともに当館への来館者数も増加し、現在は年間約 40,000 人の方にお越しいただき、2015 年 9 月にはのべ来館者数 400,000 人を超えました。資料の収集・展示・保管や調査研究活動、講座や各種の催しにご協力くださる関係者の方々、そして当館の活動を暖かく支えてくださる地域の方々や来館者の方々に、厚く御礼申し上げます。

2015 年度は企画展示「移民画家　半田知雄の世界　二宮家ブラジル移住 60 周年記念コレクション」「終戦 70 年企画展示　海を超えたヒロシマ・ナガサキ」「横浜・バンクーバー姉妹都市 50 周年記念企画展示　TAIKEN 体験　－日系カナダ人　未来へつなぐ道のり－」を実施するとともに、これら展示に関連した催しを開催し、研究者や海外移住に関心を持つ方々をはじめとし、多くの方々にご来場・ご参加いただきました。

移住送出県との連携による企画展示も継続しています。2014 年度に開始した企画展示「連れもて行こら　紀州から！　－世界にひろがる和歌山移民－」は、5 月の当館での企画展終了後、各地での巡回展が開催されています。2016 年 3 月からは「ルーツは福岡　夢は世界へ　～世界で活躍する福岡移民～」を開催しています。2016 年度は広島展の開催を計画しており、2015 年度は企画展示に先立ち、県立文書館の特別展示に協力しました。

2014 年 4 月から開始した国際移民学会との共同開催による公開講座シリーズは、2016 年 2 月に全 12 回の講座を成功裏に終えました。

この他、2015 年度は「日本に住むペルー人」や「戦争花嫁」をテーマとするワークショップも開催しました。

次世代を担う青少年を対象とした活動としては、学校や団体を対象とした教育プログラムを実施するとともに、移住者や日系社会を身近に感じてもらえるよう、地域の博物館と連携したスタンプラリーなどの親しみやすい催しも開催しました。

博物館にも地方創生への貢献が求められる時代となりました。当館においても、地元横浜市や神奈川県、そして全国の移住送出県と連携し、海外移住資料館の活動を通じた地方創生に貢献していく所存です。

引き続き当館の活動へご支援・ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

独立行政法人 国際協力機構
横浜国際センター　所長
海外移住資料館　館長
朝熊　由美子

目　　次

1.　展示イベント等 1

2.　情報システム 13

3.　資料等情報整備 14

4.　教育普及活動 15

5.　広報活動 21

6.　運営委員会及び学術委員会 23

7.　アンケート調査 26

8.　各種実績等 27

1. 展示イベント等

<u>企画展示１</u>　「移民画家　半田知雄の世界
二宮家ブラジル移住 60 周年記念コレクション」

開催期間：6 月 6 日（土）～7 月 5 日（日）
開催期間中入館者数：2,540 名

概　　要：　半田知雄は 1917 年、11 歳で父母と共にブラジルへ移住。コーヒー農園で働いた後、14 歳でサンパウロ市に出て日本語新聞「ブラジル時報」の文選工として働きながら日本語とポルトガル語を学び、絵の修行を始めた。1935 年サンパウロ美術学校を卒業し、画家を志す日系の仲間とサンパウロ美術研究会（聖美会）を結成。移民の生活を題材にした作品を多く残し、その作品は絵画としてだけでなく移民研究の史料としても高い評価を受けた。
　本展示では、サンパウロ大学教授の二宮正人氏より寄贈を受けた、半田知雄の油絵作品 19 点に加え、同時代の日系人画家高橋吉左衛門、大竹富江らの作品あわせて 28 点を展示し、ブラジルで日本人が貢献した分野として、農業と並び賞されるほどの評価を受ける日系芸術家の足跡を紹介した。

展示の様子

付帯イベント：二宮正人氏 特別講演「私とブラジル」
実施日時：6 月 21 日（日）　14:00～15:30
会　　場：JICA 横浜 4 階　かもめ
受講者数：129 名
概　　要：　「移民画家 半田知雄の世界」に関連して、コレクションを寄贈したサンパウロ大学の二宮正人氏による特別講演を開催した。二宮氏は、ブラジルへ移住した経緯をはじめ、1950 年代の移住当時のブラジルの生活の様子や、日本からの要人がブラジルを訪問した際に通訳を務めた時のことなどを写真やエピソードを交えて紹介した。

当日の様子

<u>企画展示 2</u>　「終戦 70 年企画展示　海を超えたヒロシマ･ナガサキ」

開催期間：7 月 18 日（土）～9 月 27 日（日）
開催期間中入館者数：9,762 名

概　　要： 2015 年は、終戦 70 年。広島、長崎への原爆投下からも 70 年になる。高齢により、被爆者が減少していき、原爆の記憶が風化していく中、その体験をいかに後世に伝えていくかは、平和を願う地球市民としての日本人の大きな課題となっている。

その一方で、1945 年の夏に広島、長崎で被爆し、北米・南米大陸に移り住んだ人々がいることを知る人はほとんどいない。人類史上二度とあってはならない負の歴史を別の角度から捉えることで、多面的に後生に伝え、風化しない記憶とする必要がある。

メキシコ在住の映像作家／アーティスト竹田信平氏が 2005 年から 8 年以上をかけ、カナダ、アメリカ、メキシコ、ペルー、ボリビア、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイで、60 人以上の北米・南米大陸に暮らす被爆者たちを取材した。その体験談を収録し、写真やプロジェクションと音声などのマルチメディアを駆使した作品を制作。北米・南米大陸に移り住んだ被爆者の歴史、移住の背景、現代の生活、精神的な痛み、彼らの発信活動などを、海外在住被爆者のインタビューと合わせて紹介した。

展示の様子

付帯イベント①：岐路の記憶を紡ぐ－Hiroshima,Nagasaki, 水俣－
第 1 部 パネルディスカッション　第 2 部 映画上映「ヒロシマ・ナガサキダウンロード」

実施日時：8 月 8 日（土）13:00～17:00
会　　場：JICA 横浜 4 階かもめ
受講者数：58 名
概　　要：「海を超えたヒロシマ・ナガサキ」の関連企画として、2 部構成でイベントを行った。

第 1 部では、「岐路の記憶を紡ぐ　－Hiroshima, Nagasaki, 水俣－ Collecting memories at historical crossroads-Hiroshima, Nagasaki, Minamata-」と題したパネルディスカッションを開催。コーディネーターに柳田利夫慶応義塾大学教授、パネリストに竹田信平氏(映像作家/アーティスト)、和氣直子氏(ミシガン州立大学教授)、下田健太郎氏（慶應義塾大学非常勤講師)、またコメンテーターとして、慶應義塾大学大学院生の久光 翔さん、須藤 遼さん、山本晶子さんらがディスカッションを行った。

第 2 部は、竹田信平氏が制作した映画「ヒロシマ・ナガサキダウンロード」を上映した。

当日の様子

付帯イベント②：トークイベント「ブラジルから：記憶のコミュニケーション」

実施日時：8 月 14 日（金）16:00～17:00
会　　場：JICA 横浜 海外移住資料館　企画展示室
受講者数：51 名
概　　要：来日中のブラジル被爆者平和協会の森田隆氏、渡辺淳子氏、盆小原国彦氏と、企画展示「海を超えたヒロシマ･ナガサキ」を制作した竹田信平氏によるトークイベントを開催した。
　記憶の継承の模索とともに、ブラジル被爆者平和協会が行う、様々な形で原爆の記憶を伝える活動を紹介。参加者が、原爆の記憶を作品として発信し続ける竹田氏をナビゲーター役とし、これからの被爆体験の継承のあり方を被爆者と一緒に考えるイベントとなった。

当日の様子

<u>企画展示 3</u>　「横浜・バンクーバー姉妹都市 50 周年記念企画展示
TAIKEN 体験　―日系カナダ人　未来へつなぐ道のり―」

開催期間：10 月 24 日（土）～2 月 7 日（日）
開催期間中入館者数：11,820 名
概　　要：1877 年にはじまるカナダへの日本人移民の歴史。
　日本人移民は、漁業や製材業などで暮らしていたが、第二次世界大戦時の強制収容所など、厳しい時代を体験した。
　しかし、移住百周年を契機として、日系コミュニティ再建への関心が高まり、先祖の「体験」と日系カナダ人としての誇りを継承する活動が積極的に行われている。
　カナダの日系文化センター・日系博物館の協力のもと、常設展示パネルを再現し、日系カナダ人の歩んできた歴史と、未来への取り組みを紹介した。

展示の様子

付帯イベント：ゴードン門田氏 特別講演
「二つの母国-カナダ社会における日系人の歴史と現在-」
実施日時：11 月 28 日（土）14:00～15:30
会　　場：JICA 横浜 1 階　会議室 1
受講者数：27 名
概　　要：「TAIKEN 体験」の関連イベントとして、展示でも紹介されているゴードン門田氏（日系文化センター初代理事長）の特別講演会を開催した。

<u>企画展示 4</u>　「ルーツは福岡　夢は世界へ
～世界で活躍する福岡移民～」

開催期間：3 月 1 日（火）～6 月 5 日（日）
開催期間中入館者数：3,787 名（2015 年 3 月末日現在）

概　　要：福岡県の海外移住者の数は全国 4 番目に多く、北中南米 9 カ国 21 地域に県人会がある。福岡県では、移住者を送り出すと同時に、海外に暮らす福岡県人やその子孫と、常に未来を見据えた交流を行ってきた。
　福岡県からの海外移住には、県内の隠れキリシタンが中南米に移住したことや、戦前のコロンビア計画移住は 93%が福岡移民であるなど特筆すべき点が多く、また、移住先国で多く有名人を輩出しているのも特徴の一つである。
　多彩で魅力ある福岡県の海外移住の歴史と海外福岡県人の現在の姿をドラマチックに紹介した。

展示の様子

付帯イベント：「ルーツは福岡　夢は世界へ～世界で活躍する福岡移民～」
オープニングセレモニー

開催日時：3 月 5 日（土）11:00～16:00
参加者数：14 名
概　　要：企画展示オープンを記念して来賓を招き、オープニングセレモニーを開催した。
式次第　：・主催者挨拶　JICA 横浜海外移住資料館副館長　木下雅司
・挨拶　福岡県国際交流局交流第一課　野上明倫課長
・特別展示室ご案内
・ミニイベント：小倉祇園太鼓（関東無法松会）
・ふくおか銘菓展

当日の様子

<u>巡回展示</u>　「連れもて行こら　紀州から！―世界にひろがる和歌山移民―」

概　　要：当館で 2015 年 3 月 8 日から 5 月 10 日まで行った特別展示「連れもて行こら　紀州から！-世界にひろがる和歌山移民ー」にご協力頂いた各施設・団体にて以下のとおり、巡回展示を開催した。

①和歌山大学
開催期間：7 月 7 日（火）～7 月 24 日（金）

②和歌山県国際交流センター
開催期間：8 月 3 日（月）～31 日（月）

③日高高校学祭
開催期間：9 月 4 日（金）～5 日（土）

④串本町文化センター
開催期間：11 月 12 日（木）～15 日（日）

⑤紀の川市打田生涯学習センター
開催期間：2 月 2 日（火）～16 日（火）

⑥田辺市文化交流センター交流ホール
開催期間：2 月 26 日（金）～4 月 1 日（金）

イベント１　横濱ベイサイドスタンプラリー

開 催 日：4 月 25 日（土）～5 月 6 日（水・祝）
概　　要：近隣の施設 9 か所のスタンプを集めて、抽選で賞品がもらえるスタンプラリーに参加。当館スタンプを押印した方には国旗缶バッジもプレゼントした。

イベント２　ゴールデンウィークイベント　わかぱんに会える！

開 催 日：4 月 30 日(木)～5 月 6 日(水)
概　　要：開催中の特別展示「連れもて行こら　紀州から！―世界にひろがる和歌山移民―」に関連し、和歌山観光 PR シンボルキャラクターわかぱんが来館し、来館中のお客様をはじめ近隣のお客様へグリーティングを行った。

イベント３　特別展示関連イベント　講演会
「チキン・オブ・ザ・シー」と在米太地人会の百年

開催日時：5 月 9 日(土)14:00-15:30
講　　師：櫻井敬人（太地町歴史資料室学芸員）
受講者数：22 名
概　　要：特別展示「連れもて行こら　紀州から！　―世界にひろがる和歌山移民―」に関連する講演会。和歌山県太地町歴史資料室学芸員の櫻井敬人氏を講師に招き開催した。2015 年はカリフォルニア州ターミナル島で在米太地人会が創設されてから 100 周年にあたり、特にアメリカに渡った人々を焦点とした講話を頂いた。

イベント４　日系社会シニア・ボランティアが見たアマゾンと日系社会
マンガでわかる移民の話

開催期間：5 月 22 日(金)～5 月 31 日(日)
概　　要：JICA 日系社会シニア・ボランティアとしてブラジル国アマゾニア州マナウス市に派遣されていた鶴田俊美氏による「マンガでわかる移民の話」をパネル展示した。

イベント５　6 月 18 日は海外移住の日

開催日時：6 月 18 日(木)～21 日(日)
概　　要：6 月 18 日の「海外移住の日」にちなみ、4 日間にわたって
以下のイベントを開催した。
●カルタで遊んでタイムスリップ！ 10:00-16:00
　日本―ブラジル移民カルタを実施し、参加者には国旗缶バッジをプレゼントした。
●日系農家のコーヒー試飲会 11:00～16:00
　資料館入口にてブラジル日系農家のコーヒー試飲会を開催。
●カフェーパウリスタのパネル展示

イベント６　ミュージアムクイズラリー　よこはま 2015

開催期間：7 月 18 日（土）～8 月 30 日（日）
当館参加者数：278 名

概　　要：当資料館を含む横浜・みなとみらい地区周辺の 11 の博物館が開催する「ミュージアムクイズラリーよこはま 2015」。毎年夏休み期間中に開催されており、2015 年度も実施した。

イベント7　子どもアドベンチャー2015

開催日時：8月18日（火）～19日（水）
概　　要：【18日のみ】ミニ資料館を作ろう！13:00-16:00
小中学生を対象に、自分で資料を選び、解説文を考え、写真を撮ってパネルを作成し展示。また、自分の調べた資料についての発表を行った。参加者には「資料館ジュニア・スタッフ認定証」と「記念写真」をプレゼントした。参加者：9名
【19日のみ】カルタで遊んでタイムスリップ！ 10:00-16:00
移民カルタで遊びながら、移住について学び、参加者には国旗缶バッジをプレゼントした。参加者：31名

イベント 8　JICA 横浜 特別企画　移動プラネタリウム　「世界の星空めぐり」

開催期間：8 月 28 日(金) ～30 日(日)
概　　要：JICA横浜オリジナル「世界の星空めぐり」の投影と併せて、海外移住資料館企画展示「海を超えたヒロシマ・ナガサキ」連動企画として、原爆投下後の広島市で生きる人々を描く、特別プラネタリウム番組「夕凪の街、桜の国」を上映した。

イベント 9　ヨコハマ・ワールド・ウォーク 2015

開催期間：9 月 13 日（日）10:00-16:00
概　　要：横浜市体育協会が主催するイベントで、当年も資料館入口にチェックポイントを設置した。当日は743名の参加者が来館し、展示を見学した。

イベント10　ベトナムフェスタin神奈川　～超Beyond the NEXT!～プレゼント企画

開催日時：9月19日(土)～20日(日)
概　　要:日本大通り及び神奈川県庁周辺で開催される「ベトナムフェスタ in 神奈川～超Beyond the NEXT!～」連動企画として、当館と同フェスタのJICA横浜ブースの両方を訪れた方に、記念品をプレゼントした。

イベント 11　よこはま国際フェスタ 2015

開催日時：10 月 10 日(土)～11 日(日)
概　　要：当該フェスタに当館もブースを出展した。ブース内には当館紹介パネルや企画展示ポスター、教育プログラムの資料や貸出教材を展示した。ブース前では日系農家のコーヒー試飲会を行った。また、ブースで配布した資料館パスポートを持参して来館した方には記念品をプレゼントしたり、JICA3 階レストランにおいて、資料館パスポートを提示すると、ドリンクサービスを受けられたりする特典も用意した。来場者数：915 名。

イベント 12　第 8 回　宝島ハロウィン・ラリー

開催日時：10 月 25 日（日）11:00～16:00
参加者数：1,291 名
概　　要：みなとみらい・新港地区で開催された第 8 回宝島ハロウィン・ラリーに参加。常設展示室内にラリーポイントを設置し、仮装をして来館した子どもたちを対象にお菓子を配布した。

イベント 13　JICA 横浜特別企画　移動プラネタリウム　「世界の星空めぐり」

開催期間：11 月 21 日(土）～23 日(月・祝)
概　　要：海外移住資料館企画展示「TAIKEN 体験　-日系カナダ人 未来へつなぐ道のり-」の連動企画として移動プラネタリウムを開催。カナダをはじめとした世界各地の星空を投影した。

イベント 14　クリスマス特別企画！世界の民芸品プレゼント！！

開催期間：12 月 23 日(水）～27 日(日)
概　　要：期間中、海外移住資料館でアンケートを実施した方に、民芸品をプレゼントするイベントを実施した。プレゼント配布数：281 個。

イベント 15　新春お正月特別企画　JICA 横浜でおもちつきをしよう！

開催期間：2016 年 1 月 2 日(土）～3 日(日)
概　　要：JICA 横浜とカップヌードルミュージアムの新春コラボ企画として、おもちつき、振る舞いもち、外国語子ども用絵本プレゼントなどのイベントを実施した。おもちつきにはカップヌードルミュージアムのひよこちゃんも応援にかけつけ会場を和ませた。海外移住資料館でカップヌードルミュージアムのチケットを提示された方に「オリジナル世界地図」をプレゼントした。

公開講座１　公開講座「日本人と海外移住」

2014 年 4 月から、JICA 横浜 海外移住資料館と日本移民学会の共同開催で、公開講座シリーズ（全 12 回）を開催。公開講座は地域・国別の概説とし、北中南米、ハワイ、南洋群島・東南アジア、満洲、日本を扱い、それぞれの地域に渡った日本人移民・植民に関する専門家が、分かりやすく講義した。2015 年度は以下のとおり、第 7 回～第 12 回までを実施した。

第 7 回「南洋群島への移民」

開 催 日：4 月 25 日（土）　13:00～14:30
講　　師：今泉裕美子（法政大学教授）
受講者数：25 名
概　　要： 南洋群島とよばれる地域の地理的説明に続き、大航海時代以降のヨーロッパ植民地時代から現在までの歴史のなかで、日本の統治がいつどのようにおこなわれたのかを解説。「チャモロ」「カナカ」「島民」など植民地支配者による現地住民への呼称とそこに孕む問題についても言及した。また、日本が南洋群島を委任統治することになった経緯などを分かりやすく解説し、最後に南洋群島への日本から移民した「南洋移民」の経験から学び得る教訓が語られ、講座がまとめられた。

第 8 回「満洲への植民」

開 催 日：6 月 20 日（土）　13:00～14:30
講　　師：蘭　信三（上智大学教授）
受講者数：42 名
概　　要： 1945 年 8 月、「満洲」には約 200 万を超える日本人が居住しており、在外日本人としては最大の規模だった。何故かくも多くの日本人が渡ったのか、彼らはどのように暮らし、内地に引揚げ後、そして戦後の中国残留においてどのように生き抜いたのか。他方、「満洲」は日本社会だけでなく、朝鮮、ロシア、東欧にとっても独特の存在だった。華北の漢人は 20 世紀前半に 4 千万人もが「満洲」に移住し、朝鮮半島からも 200 万人以上が移住し、白系ロシア人・東欧の人びとも居住していた。それに、北米の日本人移民が「満洲開発」に関わっており、台湾人も満洲に移住した。このような多様な背景を持つ「満洲」で日本人はどう生きたのか、「五族協和」とはどのようなものだったのか。世界のなかの「満洲」としてとらえることで、日本社会にとっての「満洲への植民」、「満洲」の意味を考察した。

第 9 回「東南アジアへの移民」

開 催 日：9 月 26 日（土）13:00～14:30
講　　師：早瀬晋三（早稲田大学教授）
受講者数：34 名
概　　要：明治以降「太平洋戦争」の勃発までに東南アジアに移住した日本人は 75,955 人、同時期に世界各地に移住した日本人の 9.8%にあたる。東南アジアへの「移民」は、ほかの国・地域と比べ、いくつかの特徴がある。まず、日本人「移民」や日本製商品を受け入れた東南アジア社会が、海域に属していたことである。日本からの視点で日本人や商品が優秀であったと語られることもあるが、流動性が激しく、かつて少人口社会であった海域世界では、ヒトやモノの移動が日常的で、「よそ者」は新たな知識や技術などをもたらし、舶来品は生活を豊かにしてくれる歓迎すべき存在だった。つぎに、タイを除き欧米の植民支配下にあり、日本軍が占領した地域であったことである。これらのことを念頭におき、東南アジアでの「移民」について話をしていただいた。

第 10 回「在日ニューカマー：在日ブラジル人を中心に」

開 催 日：10 月 31 日（土）13:00～14:30
講　　師： アンジェロ・イシ（武蔵大学教授）
受講者数：32 名
概　　要：日本に住む「ニューカマー外国人」のなかでも、ブラジルからの「日系人」は最も代表的なエスニック集団といえる。本講義ではこの人々を「在日ブラジル人」と位置づけ、その多様な横顔を紹介・解説した。「永住者」急増の意味、リーマンショック後に「派遣切り」され日本を去った人々の思惑、3.11 後にいち早く被災地でボランティアをした者の決断など、マスメディア報道では見えてこない「普通の人々」の物語を話していただいた。また、在外ブラジル人のなかで在日ブラジル人がどのような存在なのかを紹介した。

第 11 回「在日オールドカマー」

開 催 日：12 月 5 日（土）13:00～14:30
講　　師： 李洙任（龍谷大学教授）
受講者数：24 名
概　　要： 日本は戦前、植民地出身者（在日オールドカマー）を日本人「皇国臣民」としつつ、戦後（1952 年）一方的に彼らの日本国籍の喪失を宣告した。戦後 70 年経過した今日でも日本社会の周辺に置かれ、今や在日オールドカマーは新しい世代では四世や五世となっている。韓国・朝鮮人が外国人の最多数を占めていた時代では、日本の外国人処遇対策は在日韓国・朝鮮人処遇対策と同義で、国籍条項を盾に彼らの社会参画は排除された。民族差別にあえぎ、社会的・法的・経済的差別待遇から日本人と同等の就業機会が与えられなかった在日コリアンは、いかに生計を維持しようとしたのか。「エスニック・マイノリティ」という逆境を起業家精神へと昇華させ、果敢に事業展開を挑んで、華々しい成功をおさめた在日コリアンが現存する一方、運命や国家制度に翻弄され、困難な人生を余儀なくされた人々の事例等を紹介した。

第 12 回「移民研究の現状と展望」

開 催 日：2 月 27 日（土）　13:00～14:30
講　　師：飯野正子（津田塾大学名誉教授）
　　浅香幸枝（南山大学准教授）
受講者数：67 名
概　　要：人の移動について考察したこれまでの研究を振り返り、とくに国際関係と人の移動について解説した。国と国との関係が、人の移動や移り住んだ国での生活にどのような影響を及ぼしたのか、さらに、国境を越えて移動した人々は自分が離れた国をどう見たのか、という点について論じた。また、日系アメリカ人・日系カナダ人は、日米関係・日加関係が悪化したとき、自らの住む国を、そして祖先の国、日本を、どう見たのか。第二次世界大戦前・直後のカナダにおける仏教会、戦後の「ララ物資」などを例に考察した。

公開講座２　パネルディスカッション
「日本のペルー人　―25 年の歩みとその未来―」

開 催 日：7 月 25 日（土）　15:00～17:00
共　　催：APJ(ペルー日系人協会)・PJECA 研究会
後　　援：JICA 横浜 海外移住資料館・KYODAI
パネリスト：ペドロ・マカベ（ペルー日系人協会会長）
　　赤木妙子（目白大学社会学部教授）
　　アナ・スエヨシ（宇都宮大学国際学部准教授）
コメンテーター：アルベルト・マツモト（IDEA NETWORK）
　　三田千代子（元上智大学教授）
　　ロクサーナ・シンタニ（早稲田大学国際教養学部助教）
コーディネーター：柳田利夫（慶應義塾大学文学部教授・JICA 横浜 海外移住資料館学術委員）
受講者数：67 名
概　　要：南米日系人の出稼ぎブームの嚆矢から既に 25 年を超える歳月が経過し、日本におけるペルー社会も、日本、ペルー両国のみならず、地球規模での政治、経済、社会情況の激しい移り変わりに呼応して、それぞれの置かれた状況の中で種々の変遷を遂げてきた。
　そして今、高齢化と人口減少にともなう構造的な労働力不足が大きな危機感を持って受け止められ、外国人移民受け入れの必要性が毎日のように議論される時代を日本は迎えている。
　かつてバブル経済の中、労働力不足を補う形で始まった南米日系人の日本出稼ぎ 25 年の歩みを、ここでもう一度振り返るとともに、日本のペルー社会がこれから果たしてゆくべき役割について、しっかりと考えてみることが必要な時期が到来している。
　本シンポジウムはそのためのひとつの素材を提供すべく、PJECA 研究会と APJ（ペルー日系人協会）の合同企画として、JICA 横浜海外移住資料館の後援を得て実施された。

公開講座３　パネルディスカッション　「日本のペルー人Ⅱ　―二世の社会参加―」

開 催 日：10 月 24 日（土）　14:00～17:00
共　　催：APJ(ペルー日系人協会)・PJECA-4
後　　援：JICA 横浜 海外移住資料館・KYODAI
パネリスト：森本昌義（海外日系人協会常務理事）
　　木本結一郎（Kyodai Remittance）
　　ペドロ・マカベ（ペルー日系人協会会長）
コメンテーター：赤木妙子（目白大学社会学部）
　　拝野寿美子（神奈川大学）
コーディネーター：柳田利夫（慶應義塾大学文学部教授・JICA 横浜 海外移住資料館学術委員）
受講者数：62 名
概　　要：出稼ぎ 25 年を経過して、既に多くの日本生まれ、日本育ちの「ペルー系二世」が就職等を通じて日本の社会へと参加している。
　近年では、ペルーでの生活を全く経験していない、日本生まれ日本育ちの子供達も社会へと旅立ってゆきつつある。彼等一人一人の置かれた、社会的・経済的・文化的状況は非常に多様であり、同時に、少子高齢化や移民導入に関する議論からもうかがえるように、日本社会そのものもまた、大きな構造変化の時代を迎えている。
　7 月の第 1 回に続き、パネル「日本のペルー人」の第 2 回として、二世の社会参加をテーマに、ペルー、ブラジル、アメリカ合衆国、そして日本における、様々な二世たちの生活と社会参加を身近で経験してきた 3 人のパネリストの皆さんに、その経験をもとに、日本の「ペルー系二世」

が果たしうる役割と可能性とについてお話を伺い、二世自身はもとより、日本の社会に求められていることも含めて議論をした。

公開講座４　「『七転び八起き：アメリカへ渡った戦争花嫁物語』の上映と解説」
（よこはま国際フォーラムプログラム参加企画）

開 催 日：2 月 7 日（日）　15:00～16:50
パネリスト：Lucy Craft（映画制作者）
安冨成良（嘉悦大学元教授）
土屋智子（日本女子大学専任講師）
受講者数：42 名
概　　要：1950年代末までに4万人を超える女性が進駐軍兵士との結婚で渡米し、差別・偏見・言語や文化の差異などの障壁と闘いながら力強く生きてきた。戦争花嫁を母に持つ長女3人のアメリカ人ジャーナリストが制作したドキュメンタリー『Fall Seven Times, Get Up Eight: The Japanese War Brides』（『七転び八起き：アメリカへ渡った戦争花嫁物語』）の上映（26分）と映画制作者の一人のLucy Craftさんによる解説を行った。またその他の映像の上映（15分）と、戦争花嫁問題に詳しい安冨成良氏・土屋智子氏を交えたパネルディスカッションを開催した。

その他協力等　広島県立文書館特別展示　「広島から世界へ　～移住者の歴史と現在～」

開催日時：10 月 5 日（月）～12 月 26 日（土）
主　　催：広島県
協　　力：独立行政法人　国際協力機構
会　　場：広島県立文書館展示室（広島県情報プラザ 2 階）
概　　要：広島県立公文書館が 1991 年に開催した「海外移住展」を再構成するとともに、当資料館において、現在の海外広島県人会と母県との交流や同県の実施する県費留学生受入、県人会後継者育成事業等の関連事業、同県出身の JICA ボランティア等のコンテンツを追加。当資料館がパネルを製作した。

展示の様子

2. 情報システム

1)情報検索システム

(1)情報検索システム運用

図書資料室（海外移住）で実施される各種レファレンスサービスと連携し、当資料館の収蔵する資料について情報を整備し、情報検索システムを通じて館内、館外へ検索サービスを提供した。2015 年度末時点登録数：28,062 件（うち図書類：19,841 件、標本類ほか：8,221 件）。
URL:http://search.jomm.jp/

(2)登録データの整備

2015 年度は既に登録されている書誌情報の修正、不足情報の追加等を行った。また、図書の複本処理を行い、データを統合させた。登録情報の照合・確認・修正件数は 3,587 件。

2)海外移住資料館 web ページ新規コンテンツ

(1) 移住資料所蔵機関情報

国内及び海外における博物館、図書館、研究機関その他団体等のうち、「日本人の海外移住の歴史」に関する資料を所蔵・公開している機関について、情報提供するコンテンツを製作。移住資料所蔵機関の所在地、所蔵資料の概要、過去の展示実績等の情報を集約し、多くの皆様に提供することを目的としている。引き続き、関係諸機関の皆様より情報提供等のご協力をいただき、順次追加していく予定。
URL: http://www.jomm.jp/shozokikan/index.html

(2) JICA 横浜 海外移住資料館　研究紀要

当資料館で行われた学術研究の成果を広く社会に発信することを目的として、2006 年より刊行している「研究紀要」について、PDF 版を製作し、当資料館 Web ページにて公開した。
URL: http://www.jomm.jp/kiyo/index.html

3.資料等情報整備

1)資料の受入・収集

海外移住に関連する図書、標本等各種資料を寄贈、購入、取得等の方法で収集した。資料受入は543件。登録総件数は41,704件。

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
取得	52	15	33	30	130
購入	9	145	15	26	195
寄贈	36	25	66	74	201
移管	0	0	0	2	2
既存資料	10	0	2	3	15
寄託	0	0	0	0	0
受入合計	107	185	116	135	543

2)資料の整理

⑴海外移住事業に関する所蔵資料の整備（移住申込書データベース）

移住申込書の物理的整理作業が2011年11月に終了したことを受け、2012年度より移住申込書のデータベース構築作業が開始された。データ入力、確認作業を実施し、データ（文字情報、画像）の不備、修正等があった場合には、その都度実物資料と照合し、適宜修正等を行った。なお、本作業は慶應義塾大学文学部 柳田研究室にご協力いただいている。

⑵「歴史資料等保有施設」の指定

当資料館では2013年4月1日に公文書管理法施行令第5条第1項第4号に基づき、歴史資料等保有施設として内閣総理大臣の指定を受けた。

既に多くの所蔵資料を市民の皆様、学生、研究者等に活用いただいているが、このたびの指定を受け、引き続き、資料の整理及び保管並びに利用環境整備を進めていく予定である。

4. 教育普及活動

1)教育プログラムの概要

海外移住資料館では、日系移民に関する資料の収集、保存、展示、研究活動のほか、設立趣旨にあるように移住者たちの足跡や役割について多くの人々に伝え、理解を深めてもらう役割を担っている。また、特に若い世代の人々に、多文化共生社会を生きる一員として、あるいは開発教育の視点からも、一人ひとりに移住者からのメッセージを受け止めてもらいたいとの思いから、開館当初より、教育普及活動に積極的に取り組んでいる。

現在、日本においても外国から多くの人々が移り住み、多文化社会が進展してきており「多文化共生」が教育の分野においても大きな課題になっている。そこで、日本人の海外移住の歴史と日系人の生活について展示を行っている当資料館では、そのような課題に応え、教育関係者を対象として、指導者向けの解説書である「学習活動の手引き」作成をはじめとし、教材開発やボランティアによる展示ガイド等、多様な教育プログラムを実施している。

今後､世界の移民人口はますます増加すると予想されている｡このような 21 世紀の世界の中で、グローバルな価値の実現をめざして行動できる地球市民としての資質に加え、多文化社会の中で異なる文化を受容、尊重し、共生へ向けて行動できる市民としての資質という両方の育成が求められている。当資料館の教育プログラムを「共生にむけて」社会参加ができる子どもたちの育成のために活用いただければと考えている。

表：海外移住資料館の学習教材

【学習活動の手引き】無料配布 この手引きには、移民について学ぶことの意義が記され、その意義に沿った、海外移住資料館の展示及び各種教材を活用したいくつかの授業構想が含まれている。学校の先生方はもとより、NGO/NPO 関係の方々の授業づくりやワークショップの際の参考として利用できる。	
【移民カルタ】貸出可 日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いなど、子どもたちに知って欲しい移民に関するさまざまな事柄を、遊びを通して楽しみながら学ぶことができる。	
【日本-ブラジル移民カルタ】貸出可 このカルタは、単に日系ブラジル人の歴史や文化を学ぶだけではなく、日系ブラジル人の継承日本語教育の学習教材としても活用できるよう、日本語とポルトガル語の解説が併記されるなど、様々な工夫が凝らされている。(制作：移民カルタ研究会)	

【紙芝居】貸出可

絵や写真、そしてわかりやすい言葉で書かれた物語を通じ、移住者の歴史的経験や心情、日本に暮らす日系人の生活や思いを共感的に理解することができる。全 4 種類。

（上段左）海を渡った日本人
（上段右）カリナのブラジルとニッポン
（下段左）ハワイに渡った日系移民
（下段右）弁当からミックスプレートへ

【いみんトランク】貸出可

いみんトランクは、国際的な人の移動から多文化共生を学ぶことのできる教材として、また、日本と世界をつなげていく教材として、移民に関する授業や事前学習のサポートを目的に貸し出ししている。移住者の歴史や経験、貢献などにかかわるハンズオン教材として、以下の教材を用意している。

・野菜山車（画像・トピックシート有）
・ハワイ移民労働着
・弁当缶
・笠戸丸画像
・パールハーバー当日の新聞
・太平洋戦争終戦を伝える新聞
・さとうきび
・ミックスプレート（トピックシート有）
・移住斡旋ポスター
・ジュート
・コショウ
・綿花
・コーヒー
・アマゾンで栽培されている野菜
・アマゾンや日系人の貢献に関する情報（資料）
・アマゾンを守るエコ農法（朝日新聞記事）
・アマゾン移住に関する概要・年表（資料）
・サクラ醤油
・ハワイ盆踊り手ぬぐい
・ロコモコ（トピックシート有）
・スパムセット
・Ｔシャツ（日系コミュニティのイベント等で使用されたもの）
・ブラジルの和菓子（まんじゅう、あんぱん、詰め合わせ、もち、金澤製菓画像。トピックシート有）
・ブラジル南米神宮のお守り（南米神宮画像、トピックシート有）
・外国人登録者数推移（資料）
・世界地図
・ハワイのビッグファミリー（画像）

【ハワイ移民労働着：ハナハナウェア】

【ミックスプレート、弁当缶、さとうきび】

Honolulu Star-Bulletin 1st EXTRA

WAR!

OAHU BOMBED BY JAPANESE PLANES

【パールハーバー当日の新聞】

これらの教材を実際見て、手に取ることで、日本人移民の歴史と経験について何かを感じ取り、学習効果が高まることを期待している。 なお、トピックシートに関してはホームページ上からダウンロード出来るよう対応した。	 【ブラジルの和菓子】
【定点解説キット】 日本からの移住者が運んだトランクを再現したもの、当時の移住先国での暮らしを紹介するものなど、10 のキットがある。直接体験を通して展示をより実感して理解することが可能となる。本キットは、常設展示案内時に使用している。 ・サトウキビ畑の生活・仕事（麦わら帽子、手ぬぐい地の帽子、軍手、写真パネル等） ・ミックスプレート（写真パネル） ・スーツケース（写真カード入小箱、トランク等） ・移住物語（写真アルバム、複製パスポート） ・花と製品あてゲーム ・農作業具（写真パネル） ・日系商店（萬屋の品揃えアルバム、エプロン等） ・日系人の食卓（写真アルバム） ・イグアス（空撮写真、アルバム等） ・宝さがし（中高生向写真カード、ゾーンマップ）	
【映像教材】貸出可 日本人の海外移住の歴史に関する映像教材。以下 6 種類は貸出も行っている。 ①DVD「子供たちの百年 ブラジルに渡った少年少女は、今！」（制作：2008 年） ②DVD「アマゾンに挑んだ草創の日本人」（制作：2009 年） ③DVD「JICA 横浜　海外移住資料館」（制作：2009 年） ④DVD「夢と希望を運んだ船　～移住船での暮らし～」（制作：2009 年） ⑤DVD「100 年の鼓動　―ハワイに渡った福島太鼓―」（制作：2011 年） ⑥DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」※（制作：2013 年） ※本映像教材は『二つの祖国で・日系陸軍情報部』などで知られるすずきじゅんいち監督より寄贈を受けた。	
【パスポート】 当館概要、海外移住の歴史、ワークシート、来館記念スタンプ用紙などを一つの冊子にまとめ、作成した。学生はもとより一般来館者へも配布し、展示のねらいに即した見学を支援するとともに、見学後、見学した内容を簡単に振り返る事が出来るよう工夫した。	
【パワーポイント教材】 海外移住の歴史、移住者の貢献、経験、さらに日本における在日外国人の状況にも思いを寄せられる内容となっている。対象は小学生以上。1 時間以上の見学時間を予定している学校関係者を中心に、要望に応じて活用している。	

2)教育プログラムの実施

教育機関の団体入館児童・生徒、学生を主な対象として、ガイダンス（概要説明)、パスポートや学習教材を使用したプログラム、質問事項への対応等を実施した。本年度の教育プログラム実施件数は 203 件、総受講者数は 7,020 名となった。四半期毎の実施教育機関は以下のとおり。

【教育プログラム実績】

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度計
件数	53	42	64	44	203
総受講者数	2,341	927	2,539	1,213	7,020

※件数は、実際にプログラムを実施した数。同じ教育機関が複数回受講したケースも有り。

【教育プログラム受講教育機関】

(1)第 1 四半期：

（中学校）青森市立南中学校、歌志内市立歌志内中学校、田村市立滝根中学校、栗原市立瀬峰中学校、小笠原村立母島中学校、山形市立蔵王第一中学校、横浜市立潮田中学校、横須賀市立浦賀中学校、藤沢市立善行中学校、横浜市立東山田中学校、東松島市立矢本第二中学校、稲沢市立稲沢中学校、相模原市立上鶴間中学校、平塚市立江陽中学校、横浜市立大綱中学校、横浜女学院中学校、桑名市立陽和中学校、四日市市立西笹川中学校、**（高等学校）**神奈川県立相原高等学校、神奈川県立大和西高等学校、千代田女学園高等学校、関東学院高等学校、市原中央高等学校、第一学院高等学校（横浜キャンパス)、横浜市立横浜商業高等学校、**（大学）**東海大学教養学部国際学科、慶應義塾大学、神奈川大学学芸員課程、共立女子大学国際学部、恵泉女学園大学、松蔭大学、大妻女子大学**（その他）**東京人権啓発企業連絡会、大森優良申告法人の会、港北区老人クラブ連合会、インスチツート・エドカショナル・ジェンテ・ミウーダ、港南区港南台シルバー連合女性部会、宮前区観光協会、海上自衛隊

(2)第 2 四半期：

（小学校）飯田北いちょう小学校、**（中学校）**横浜市立西谷中学校、東星学園中学校・高等学校、横浜市立新羽中学校、町田市立町田第三中学校、**（高等学校）**神奈川県立大磯高等学校、神奈川県立横須賀明光高等学校、新名学園 旭丘高等学校、神奈川県立横浜国際高等学校、清泉女学院高等学校 **（大学）**目白大学、関西大学 博物館実習 C 班、北里大学看護学部、関東学院大学 経済学部、共愛学園 前橋国際大学、中央大学、麗澤大学、**（特別支援）**神奈川県立横浜南養護学校、横浜山手中華学校 **（その他）**横浜市立森中学校 PTA、海上自衛隊、銀杏が丘木造高校同窓会、ボーイスカウト　コチアグループ、千葉県市原市教育研究会国際理解部会、東京人権啓発企業連絡会、NPO ハワイシニアライフ協会、神奈川県中小企業診断協会、対外発信強化のための中南米日系人招へい、第 3 回横浜国際保健サマーワークショップ、いちご会、特定非営利活動法人 地球のステージ、川崎市職員退職者会 横浜支部、猪苗代町国際交流協会、福島県国際課、

(3)第 3 四半期：

（小学校）横浜市立飯田北いちょう小学校、常総市立豊岡小学校、横浜市立上星川小学校、美しが丘西小学校、横浜市立南吉田小学校 **（中学校）**開智中学校、横須賀市立野比中学校、横浜市立南高等学校附属中学校、府中市立府中第七中学校 **（高等学校）**神奈川県厚木高等学校、翔凜高等学校、白鵬女子学院、横浜学園高等学校、明治大学附属 中

野高等学校、青森県立金木高等学校市浦分校、星槎国際高等学校 立川学習センター、沼津中央高等学校、愛知県立時習館高等学校、長崎県立諫早高等学校、湘南学園高等学校、神奈川県立鶴見総合高等学校、アレセイア湘南高等学校（**大学**）東洋英和女学院大学、フェリス女学院大学、都留文科大学、慶應義塾大学、松本大学松商短期大学部、大学生のための地歴科ワークショップ、神奈川大学、上智大学短期大学部、東京海洋大学、東洋英和女学院大学、東京学芸大学、恵泉女学園大学（**特別支援**）神奈川県立横浜南養護学校、神奈川県立相模原中央支援学校、神奈川県立湘南養護学校（**その他**）シルバー大学会、ボランティア団体　つばさ、ツーリングジャパン、しんじゅく女性団体会議、中央永寿会、多古第一地区社会福祉協議会、神奈川県立湘南高等学校 PTA、ハートフルルーム鶴見、ならしの日本史の会、アジア女性資料センター、東京都中学校長会 人権教育推進委員会、日暮７丁目ふれあいクラブ、藤沢市社会体育振興協議会、港北歩こう会、日系次世代指導者会議、KAKEHASHI プロジェクト、横浜市中区役所

(4)第４四半期：

（**小学校**）横浜市立下永谷小学校、（**中学校**）大田区立蒲田中学校、大田区立六郷中学校、八王子市立上柚木中学校、大田区立大森第十中学校、藤沢市立湘南台中学校、杉並区杉森中学校、常総市立水海道中学校、（**高等学校**）法政大学第二高等学校、長崎県立壱岐高等学校、（**大学**）上智大学、早稲田大学、アメリカカナダ大学、横浜市立大学連携講座、防衛医科大学校、慶應義塾大学、跡見学園女子大学文学部、北里大学、常磐大学国際学部、（**特別支援**）むぎの穂、神奈川県立保土ヶ谷養護学校 高等部 舞岡分教室、（**その他**）KAKEHASHI 一般招へいプログラム、横浜シティガイド協会、金沢区職員研修、横浜市都筑区役所、ウチナーンチュ子弟留学生、SYOB 会（清水建設、横浜国大同窓会）、神奈川弱視者問題研究会、同志社東京歩こう会、日本太鼓財団、福島県国際課、Juntos!! 対日理解促進交流プログラム（ブラジル第１陣）

【プログラム例　大学生向け（2 時間)】
① 日本人の海外移住史概要
② 在日ブラジル人・デカセギ・日系ブラジル人に関する概要説明
③ 日本人の海外移住の歴史と海外日系コミュニティに関する講義

【プログラム例　高校生向け（2 時間)】
①日本人の海外移住について解説
②ハワイと日系人に関する概要説明
③移住の歴史と在日日系人について講義
④パスポートを活用した資料館見学

【プログラム例　中学生向け（1.5 時間)】
①日本人の海外移住、横浜と海外移住との関わりについて解説
②パスポートを活用した資料館見学

【プログラム例　小学生向け（30 分～1 時間)】
① カルタで宝探し(カルタにある資料を探し解説を受ける)
② パスポートを活用した資料館見学

3)ボランティア管理運営

(1)ボランティア活動の概要

当資料館では、以下の業務をボランティアが実施している。

① 展示案内ボランティア活動

常設展示室、企画展示室内での展示案内を中心に活動している。2015 年度末時点で、登録者数は 22 名。なお、展示案内ボランティアの配置状況は以下のとおりとなっている。

- 第 1 四半期：293 人配置（79 開館日、平均 3.7 人配置）
- 第 2 四半期：258 人配置（80 開館日、平均 3.2 人配置）
- 第 3 四半期：260 人配置（76 開館日、平均 3.4 人配置）
- 第 4 四半期：255 人配置（77 開館日、平均 3.3 人配置）

② 資料整理ボランティア活動

2015 年度末時点の登録者数は 8 名。

(2)ボランティア研修会等の実施

ボランティアのスキルアップを目的とした研修を実施。また、ボランティアの意見を反映し、活動を円滑に進めていくために、以下のとおり連絡会議を実施。今後の活動について意見交換を行った。2015 年度はそれぞれ以下のとおり実施した。

① ボランティア研修会

・あーすプラザ見学会

日時：6 月 5 日（金）
参加者：12 名

・企画展示関連映画上映会「ヒロシマ・ナガサキダウンロード」

日時：7 月 17 日（金）
参加者：11 名

・シルク博物館見学会

日時：10 月 23 日（金）
参加者：9 名

・税関資料展示室見学会

日時：2 月 29 日（月）
参加者：19 名

② ボランティア連絡会議

- 第 1 回　6 月 5 日実施　参加者：17 名
- 第 2 回　7 月 17 日実施　参加者：11 名
- 第 3 回　10 月 23 日実施　参加者：15 名
- 第 4 回　2 月 29 日実施　参加者：18 名

5. 広報活動

1) 広報紙「海外移住資料館だより」発行

当資料館広報紙として「海外移住資料館だより」を、2015 年度は 4 回発行。企画展示の内容をとりあげ、展示及び収蔵資料を紹介。発行部数 7,000 部。

主な配布先は、都道府県国際交流課及び国際課、教育委員会や、各国大使館、図書館、博物館、神奈川県立高校、横浜及び川崎市内小中学校、国際教育研究協議会加盟校、外国人集住都市の国際交流協会など、約 2,000 件。その他、常設展示スペース等で随時配布している。

No.	発行	コンテンツ
38	2015 年 6 月	特集　移民画家　半田知雄の世界／半田知雄画伯との思い出
39	2015 年 7 月	特集　海を超えたヒロシマ・ナガサキ／TOPICS
40	2015 年 10 月	特集　TAIKEN 体験－日系カナダ人未来へつなぐ道のり／カナダ日系移民史年表／ 日本とカナダ次世代の交流深める／TOPICS
41	2016 年 3 月	特集　ルーツは福岡　夢は世界へ～世界で活躍する福岡移民～／海外の邦字新聞より

No.38

No.39

No.40

No.41

2)一般広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当資料館の入館者数増を目指し、地域で行われるイベント等への参加、広報媒体への掲載など、以下のとおり実施した。

(1)外部媒体への掲載

神奈川新聞／東京新聞／読売新聞／朝日新聞／毎日新聞／産経新聞／湘南よみうり／日本教育新聞／テレビ神奈川／NHK／TVK／NHK ラジオ／NBC 長崎ラジオ／日系アメリカ人市民協会大会パンフ／横浜市・神奈川新聞 雑誌「横濱」／横浜 STORY／東京散策乗物ガイド／横浜市中区版広報誌／横浜市暮らしのガイド／横浜観光コンベンションビューローサイネージ／Mirea／移動教室年鑑／歩く地図　鎌倉・横浜散歩／はまっぷワイド／横浜ビジターズガイド／横浜ベイシティ交通マップ／横浜市観光情報公式サイト／ＹＭＭ２１公式サイトなど

3)開催広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当資料館常設展示及び企画展示、公開講座、その他イベントに関する広報活動を積極的に行うため、広報素材作成と頒布、表示類の作成、プレスリリースの配信等、適宜開催広報を行った（NHK、TVK、共同通信社、時事通信社、神奈川新聞、毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、東京新聞、日本経済新聞、産経新聞、県政記者クラブ、横浜市政記者室、ニッケイ新聞、サンパウロ新聞、JCOM、ラジオ日本、フリーペーパー各紙、各種イベント広報 web サイト等）。また近隣博物館、商業施設、宿泊施設等へ、広報物の掲出・設置等依頼した。

4)海外移住資料館「友の会」

海外移住資料館「友の会」は、「日本の海外移住の歴史」や「日系人」、「多文化理解・共生」などのテーマに興味・関心のある方々へ関連情報を発信するとともに、当資料館利用者数の増加を図ることを目的に設立された。

活動内容は当資料館で実施する事業やイベントの案内、海外移住の歴史や日系人、多文化理解といったキーワードに関連する情報の発信等となっている。

情報発信のツールとして、メールマガジンを利用し、2015 年度は計 12 回配信した。メールマガジンは月 1 回の配信を基本とし、配信している。

会員登録には、メールマガジンの配信登録を利用し、2015 年度末時点で、友の会会員は DM 会員：274 名、メール会員：779 名となった。

6.運営委員会及び学術委員会

1)運営委員会

海外移住資料館の運営方針、事業計画、学術事項等運営に関する重要事項について専門的な見地から議論・検討することを目的とし、運営委員会を設置している。

2)学術委員会

海外移住資料館における学術研究に係る企画・実施協議・評価・交流を行うことを目的として、2006 年度に海外移住資料館学術委員会を設置した。同委員会は、学識経験者、JICA 横浜所長（海外移住資料館長）により構成される。

【2015 年度 学術委員会開催】
- 第 1 回学術委員会（7 月 24 日）
- 第 2 回学術委員会（9 月 28 日）
- 第 3 回学術委員会（12 月 21 日）

【2015 年度 学術委員】

委員長	飯野正子	津田塾大学名誉教授　前学長・前理事長
委員	島田法子	日本女子大学名誉教授
	中牧弘允	吹田市立博物館館長、国立民族学博物館名誉教授
	森茂岳雄	中央大学教授
	柳田利夫	慶応義塾大学教授
	小幡俊弘	JICA 横浜所長（海外移住資料館長）

3)学術研究プロジェクト

学術委員会において企画・検討された以下の 4 プロジェクトが、2015 年度より 3 年間実施されることとなる。学術研究プロジェクトの研究概要は以下のとおり。

(1) 「第二次世界大戦直後に日本に『送還』された日系カナダ人（約 4000 人）のその後」
【概要】1942年、カナダ政府は、カナダ西海岸に居住していた21,000人の日系カナダ人を敵性外国人として内陸部に強制移動した。それらの日系人は、戦後、カナダ政府の通達により、カナダに留まる者は「ロッキー山脈の東」へ移動、さもなくば日本に「送還」という二者択一的な選択を迫られた。ロッキー山脈の東への移動を拒否した日系人は、カナダ生まれの日系人であっても日本に送られることになり、これは「国外追放」であると言われ、大きな混乱を生んだ。結果的には、約４,000人の日系人が日本に送られたとされている。彼らが戦争直後の日本でどのように受け入れられたか、その後、定着したか、あるいはカナダへ戻ったか、の全容は、これまで明らかにされていない。ここに提案する調査・研究により、日系カナダ人の歴史の重要な一幕が明確に示されると同時に、彼らが日本との絆をどのように意識していたか、そして彼らを介しての日本とカナダの関係がどのようであったか、などが、明らかになると期待される。
なお、日系人が内陸部に強制移動させられた際に、カナダ政府は彼らの財産を売却した。それによって日系カナダ人が被った経済的損失についての研究調査をする7年計画の大型プロジェクト（“Landscapes of Injustice”）が、2014年、ヴィクトリア大学の教授を中心に発足した。そ

して、カナダの大学、日系人コミュニティ組織、博物館、資料館などの協力を得て進められている、このプロジェクトは、Social Science and Humanities Research Council of Canada（カナダ人文・社会科学学術振興会)などから250万ドルの資金を得ている。
　この大型プロジェクト（“Landscapes of Injustice”）の資金は日本における調査には使われないものであり、ここに提案する学術委員会プロジェクトは独立したものであるが、日本における調査の成果を、カナダにおける報告会などで発表することは視野に入れて調査・研究を進めたい。本学術委員会プロジェクトの成果を日本で発表すると同時に、カナダでも発表することは、大型プロジェクトにとってのみならず、ＪＩＣＡにとっての貢献にもなると考えている。
【プロジェクトリーダー：飯野正子（津田塾大学名誉教授)】

(2)海外移住 150 年を振り返る:　移動する人の視点からみる国際関係
【概要】本プロジェクトは、日本人海外移住 150 年の歴史をグローバルヒストリーの文脈に位置づけつつ、移動する人の視点から複雑で多様な移動の状況について再検討を行うものである。「長い 19 世紀」における、明治維新、南北戦争、奴隷制の崩壊といった国内・国際関係における大きな動きと、太平洋をまたがる移住（パシフィック・システムの胎動）は同時期に起きたが、こうした移住は、難民・移民問題が再燃している現在の状況とどのような相違や共通点がみられるであろうか。人はどのような国際関係のもと、何を思い、何を求めて海外移住をしてきた／するのであろうか。過去の歴史を振り返ることで、現在の難民・移民問題に対しても、新たな展望を開きたい。
　日本人海外移住150年の記念事業として、北米を対象に海外移住150年を俯瞰的に振り返るため、重要な移民史・資料の発掘、編纂を行い、研究会、公開セミナー、出版を通じて、海外移住150年の歩みについて、広く社会にアウトリーチすることとしたい。
【プロジェクトリーダー：菅　美弥　（東京学芸大学准教授)】

(3) 移住資料ネットワーク化プロジェクトの充実と拡張
【概要】： 2012～2014 年度にかけて実施された学術研究プロジェクト「移住資料ネットワーク化プロジェクトの充実と拡張」で目ざした三つの柱：移住者検索システム、デジタルミュージアム、邦字新聞デジタルアーカイブについては、それぞれ PIONEROS（日本語版・西語版)、ペルー日本人移住資料館のデジタル化と拡張、「ペルー新報」のデジタル化と館内閲覧システムによる公開によってほぼ所期の課題を果たすことができた。これに引き続き、2015～2017 年度にかけて、第二期として、既に完成・稼働しているネットワーク上の基本的なプラットフォームを活用することで、調査・研究活動を継続することとしたい。
【プロジェクトリーダー：柳田利夫（慶應義塾大学教授)】

(4) 在日ラテン系二世の多角的分析
【概要】:南米日系人の日本へのデカセギ現象がブームとなってからすでに四半世紀が経過した。この間、デカセギ現象をめぐるさまざまな研究成果が蓄積されてきたが、その多くが「移民研究」あるいは「日系人研究」の延長線上で、教育・言語・文化といった側面に生じている具体的な「問題」とその「解決」、そして多文化共生といった方向性から彼ら／彼女らをとらえてきた。しかし、現状を見渡すと、そういった範疇ではもはやとらえきれないかたちで、日本、南米、もしくは両地をまたにかけて、あるいは、越境という概念そのものさえも超えてゆきつつ成長している出稼ぎ二世の世代の存在が、次第に浮かび上がってきている。
　本プロジェクトでは、日本デカセギ25年の節目にあたり、これまでの研究成果を受け止めつつ、出稼ぎ二世世代の成長と、少子高齢化時代を迎えた日本という事実を背景に、出稼ぎ25年を経て生起しつつある現象の意味と、これまでのように、一国単位の接続可能性により移民を議論することの危うさを、捉え直し、越境を超える人々の生き方を通じて、未来に繋がる共生への新しい視点を提示することを目標とした試みを行ってみたい。
【プロジェクトリーダー：赤木妙子（目白大学教授)】

4)研究紀要の発行

当資料館で行われた学術研究の成果として、研究紀要第 10 号を発行した（2016 年 3 月発行）。論文題目等は以下のとおり。

『研究紀要　第 10 号』

〈特別寄稿〉
あるブラジル移民の軌跡－黒田又蔵氏の事例を手がかりとして
　サンパウロ大学教授　二宮正人

【論文】
ハワイ日系人の正月風景にみる移民文化
―年越しの儀式の変容と継承―
　　日本女子大学名誉教授　　島田法子

ハワイ日本人移民の教材づくりに関する海外スタディツアーの教育的意義
―物語論的アプローチによる大学生の自己変容プロセスの分析を通して―
　　中央大学教授　森茂 岳雄
　　中央大学大学院博士後期課程　津山 直樹

【研究ノート】
和歌山県における移民をめぐる取り組みと今後の展望
　　和歌山大学教授　東悦子

南洋群島における日本人小学校の教育活動
－南洋庁サイパン尋常小学校保護者会編『さいぱん』（1935 年）をもとに－
　　中央大学非常勤講師　小林茂子

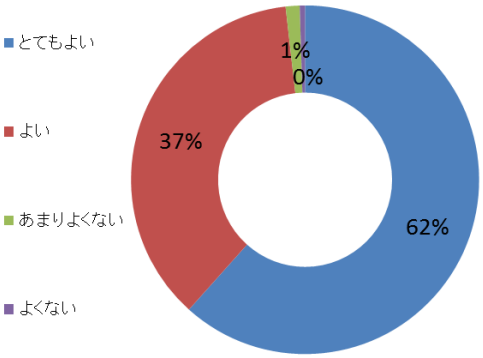
【資料紹介】
菅野武雄「最後の手記」（四）
―日本で「日本人」になった日系二世の生活と思想―
　慶應義塾大学教授　柳田　利夫

〈調査報告〉
海外移住資料館とハワイ日系社会との関係強化について
ハワイ日系社会関係促進調査（2015 年 10 月 15 日―21 日）の報告
　　津田塾大学名誉教授/海外移住資料館学術委員会委員長　飯野正子
　　国際協力機構横浜国際センター次長　玉林洋介

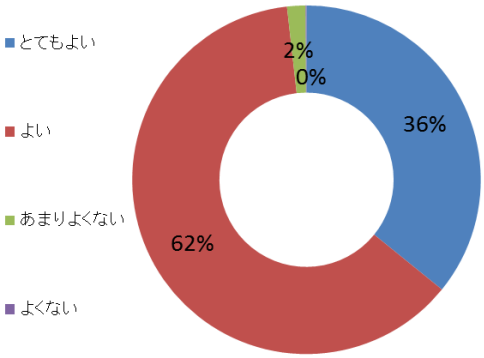
7. アンケート調査

当資料館の常設展示入館者を対象に利用者アンケートを実施。設問は「展示内容について」「展示ガイドによる展示解説について」「受付での対応について」「海外移住資料館だよりの記事内容について」等を設定した。回答総数は 1,020 件。5 段階で評価いただいたが、すべての設問において、「とても良い」「良い」をあわせた回答が全体の 8 割以上を占め、おおむね良好な回答を得た。

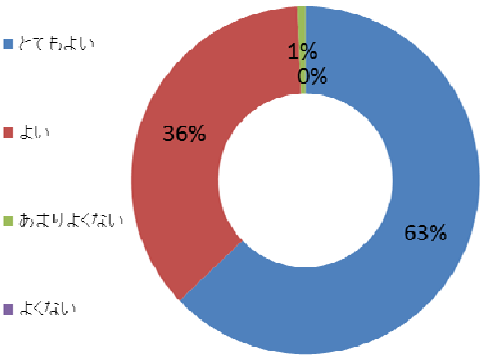
展示の内容



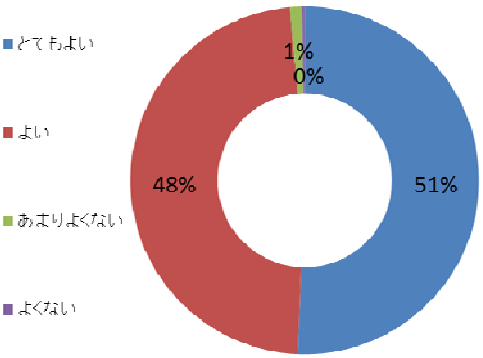
展示ガイドによる展示解説



受付の対応



海外移住資料館だより



8. 各種実績等

1) 海外移住資料館関連グッズ販売の実績

当資料館では、所蔵資料を活用し、絵葉書（17 種)、ストラップ、移住船模型（4 種)、国旗缶バッジ（15 種）の制作・販売を行っている。販売実績については以下のとおり。

単位：枚、個

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
絵ﾊｶﾞｷ（17 種）＊	261	342	701	665	566
ｽﾄﾗｯﾌﾟ（ｵﾘｼﾞﾅﾙ・十二支）	484	457	154	195	173
移住船模型	24	4	6	9	4
国旗缶バッジ	339	589	723	713	650

*2012 年 6 月までは 10 種での販売　　*移住船模型は 2015 年 9 月にて販売終了

2)日系研修員の受入

2015 度、JICA 日系研修員「資料デジタル化技術」コース(受入団体：海外日系人協会)が 11 月 9 日～12 月 2 日まで当資料館で研修を行った。当館でのデータベースシステム運用に関する講義や他館視察等のプログラムを実施し、2016 年度オープン予定のメキシコ日本人移民資料館への技術支援を行った開館を側面的に支援した。

3)その他

(1)　秋篠宮文人親王同妃両殿下御来館

10 月に訪伯を予定されておられた秋篠宮文仁親王同妃両殿下が事前準備のため、6 月 18 日に当館を訪問された。当館学術委員でもある中牧弘允氏(吹田市立博物館・館長)の案内のもと、常設展示をご見学され、開催中の企画展示「移民画家　半田知雄の世界」を、サンパウロ大学教授二宮正人氏の解説でご見学された。

(2)　来館者 40 万人達成

9 月 11 日に来館者数が 40 万人を超えた。記念すべき 40 万人目となったのは、関西大学の博物館実習で来館された 14 名の学生だった。くす玉を割って頂き、館長からは記念証明書と記念品が贈呈された。

(3)　中学生職場体験受入

今年度、初めての試みとして中学生の職場体験学習を受け入れた。与えられた資料について調べ、解説文を作成し、パネルにする作業を行った。どの学生も真剣そのもので作業にあたっていた。

① 12 月 1 日　横浜市立中川中学校　3 名
② 1 月 20 日　横浜市立瀬谷中学校　3 名

4) 各種実績

2015年度業務実績一覧　　2015.4～2016.3

情報展示スペース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入館者数	3,675	5,169	2,947	2,609	4,725	3,659	5,155	3,944	2,470	2,530	2,602	3,787	43,272
[前年同比]	99%	74%	100%	102%	134%	113%	123%	134%	93%	92%	97%	156%	107%
一般	2867	4806	2186	2285	4581	3328	4867	3101	1890	2061	2332	3783	37,082
学校関係	808	363	761	324	144	386	788	843	580	469	270	54	6,240
15歳未満	416	1317	216	296	378	389	899	696	395	465	319	422	6,708
15歳以上	3259	3852	2731	2313	3852	3270	4256	3248	2075	2065	2283	3365	36,569
個人	2594	4216	1962	2071	4897	3155	4140	2851	1552	1701	2149	3403	34,196
団体	1081	953	985	538	828	504	1015	1093	918	829	453	379	9,076
												※関館からの累計:	428,481

教育プログラム実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
実施件数	14	19	20	16	14	12	23	20	21	17	15	12	203
実施対象人数	309	673	359	336	201	340	917	943	679	574	307	332	7,020

照会対応	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	23	22	37	34	36	36	36	23	23	22	31	33	367
JICA	2	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	7
教育機関	2	1	4	3	2	3	0	1	1	2	0	1	20
国内団体	1	0	3	3	0	1	1	1	1	0	2	1	14
個人	19	18	20	25	31	25	26	17	18	18	27	31	275
自治体	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	5
商社会社・マスコミ	2	3	10	3	3	7	7	3	0	1	2	3	44
国外団体	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2

図書資料室[海外移住]	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入室者数	223	244	255	242	245	203	245	263	253	295	194	279	2,951
[前年同比]	81%	60%	128%	107%	120%	110%	115%	152%	125%	139%	102%	139%	109%
一般	73	58	92	105	106	75	75	131	86	70	48	78	987
マスコミ等	7	5	22	4	20	10	10	11	5	13	16	11	134
JICA関係[来館]	97	109	113	123	117	102	137	103	139	125	117	149	1,436
JICA関係[研修]	46	77	28	5	2	16	28	13	28	87	13	46	394

資料受入件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
資料受入件数	22	55	80	142	22	21	55	33	23	50	20	65	548
[うち収得]	5	34	13	6	6	3	12	16	5	26	3	1	130
[うち購入]	0	0	9	123	6	16	15	0	0	17	4	5	195
[うち寄贈]	17	11	3	13	10	2	28	17	21	7	3	59	201
[うち移管]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
[うち既存資料]	0	10	0	0	0	0	0	0	2	0	3	0	15
[うち寄託]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所蔵登録件数	41,188	41,233	41,268	41,410	41,432	41,453	41,508	41,541	41,569	41,619	41,639	41,704	

webページアクセス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits[訪問者数]	15,301	15,659	17,621	19,269	18,966	15,976	17,005	16,229	15,523	16,144	13,557	10,673	191,923
[前年同比]	112%	104%	102%	113%	115%	106%	1.04	1.02	0.96	0.83	0.86	0.67	100%
Pages[利用数]	46,791	44,219	48,165	58,837	60,112	50,972	46,421	48,227	42,418	46,190	44,165	30,945	562,012
Files[情報提供数]	189,670	191,927	211,787	251,760	231,866	194,019	194,788	188,688	176,111	196,167	176,644	128,899	2,321,276

情報検索アクセス数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits[訪問者数]	1,119	978	1,461	2,015	2,024	1,992	2,021	1,928	1,814	778	755	605	16,985
[前年同比]	175%	162%	234%	181%	158%	165%	158%	145%	93%	78%	67%	57%	115%
検索件数	1,197	1,082	303	354	904	1,069	350	1,019	1,156	911	679	1,104	11,578
[前年同比]	91%	72%	32%	167%	97%	113%	90%	178%	107%	75%	124%	151%	103%

JICA 横浜 海外移住資料館 館報
2015 年度

発　　行：独立行政法人国際協力機構横浜国際センター
　　海外移住資料館
発行年月：2016 年 11 月

問い合せ先
JICA 横浜　海外移住資料館
〒231-0001　神奈川県横浜市中区新港 2-3-1
Tel　045-663-3257　／　Fax　045-211-1781
Web：http://www.jomm.jp　　E-mail：info@jomm.jp

ジャイカ
JICA